

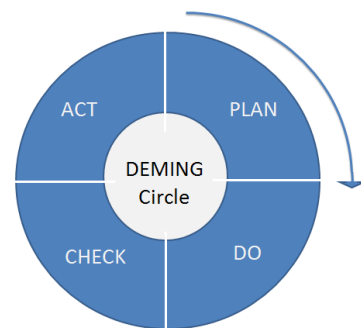


# 出前講座報告書

平成29年 7月31日 福島県県北保健福祉事務所

NO. 1

データ分析の知識とスキルは、根拠に基づく保健活動の実践やその成果を示すために重要です。また、PCM (Project Cycle Management) を用いて、地域のニーズにあった保健事業を立案するためのスキルを向上させることに注目しました。本研修は、午前実践でつかえるデータ分析の知識とスキル、午後PCM手法の2部構成でした。



## 実践で使えるデータ分析の知識とスキル 講義・グループワークの様子



本研修は1日の開催でした。午前はデータ分析の知識とスキルについて講義とグループワークを通して学びました。講義だけでなく、グループワークを取り入れたことにより、分析の準備から分析の実施までの一連のプロセスを体験することができました。スマホでできるOpenEpiでの分析が便利です。



### ～講師紹介～



福島県立医科大学  
総合科学教育研究センター  
後藤あや

平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。

米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、平成28年度より総合科学教育研究センター教授に着任し、現在に至る。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。

専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

# PCM手法 講義・グループワークの様子



PCMのグループワークでは、グループ毎にテーマを決め、問題分析、目的分析、事業計画の作成をして、発表会で成果を共有しました。熱心にグループワークに取り組まれていました。

## アンケート集計結果

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	93%
進行は適切だった	100%
講義について	
講義内容が理解できた	100%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	100%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	76%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	79%

参加者は32名

アンケート回収は29名

### \* 復習ポイント \*

- ・ データ分析の意義は？
- ・ 事業評価の視点は？
- ・ 関係者分析とは？



\* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計  
実践で使えるデータ分析の知識とスキルとPCM手法①の2回分の結果

## 編集後記

今年度の初めての出前講座でした。参加者は積極的に講義・演習に取り組まれており、講義と話し合いを通して、知識と技術の習得および保健活動への自信の獲得にもつながっていました。本日の学びを保健活動で活用する機会を増やすことで、技術の向上につながり、より豊かな保健活動が展開できると思います。（吉田）